

令和元年度二国間クレジット取得等のためのインフラ整備調査事業（CCUS 国際連携事業）の企画提案 Q&A  
 (2019年7月4日作成)

No	質問事項	回答
I 対象国について		
I-1	JCM パートナー国以外の案件についても FS を行うことで、今後の JCM 締結のトリガーになり得ると考えて差し支えないか？	現在、JCM パートナー国は 17 ケ国となっている。現時点では、JCM パートナー国を積極的に増やすことは考えていない。ただし、FS を通じて、JCM パートナー国以外でも我が国の低炭素技術等に対するニーズがあるかどうか確認することは可能。
II 調査項目について（相手国関係者との連携事業）		
II-1	セミナーを開催する場合は、国ごとに複数事業者合同で行うものか、個別プロジェクトごとに行うものか？	セミナー開催も FS の一部であることから、原則、個別プロジェクトごとにセミナーを開催することを想定しており、費用もこれを前提に積算してもらいたい。ただし、FS 実施企業との相談や相手国との調整により、最終的に複数のプロジェクトに関するセミナーを一つにして開催することはあり得る。
II 調査項目について（排出削減の定量化の検討）		
II-2	定量化の検討に関する知見がない場合はどうすればよいか？	定量化の検討に関する知見がない場合、本公募の事務局となっている三菱総合研究所から、JCM 方法論や削減量の試算方法等について助言や支援を受けてもらうことを想定している。
II 調査項目について（その他）		
II-3	CCUS と書いてあるが、CCUS ではなく、CCS だけでも対象となるか？	CCS も対象に含まれる。
III 応募について		
III-1	FS の応募に際して、自社で権益を保有している必要があるのか、あるいは、JCM 化の可能性があれば十分なのか？	FS の応募に際して、権益を保有している必要はなく、提案書の中で JCM 化のポテンシャル（削減量の試算等）が示されていれば良い。
III-2	10～20 億円規模の限定的な実証が想定されている中で、かけ離れた金額の提案は実効性がないと判断されるか？	実証の金額はあくまでも想定であるが、FS の応募に際しては、金額の多寡ではなく、実証や事業化に必要な資金調達の手筋（計画）が可能な限り具体的に示されていることが重要である。
III-3	現地企業と CO2 削減に取り組むような形、また技術だけを現地に持っていく形でもよいか？	ご質問の双方のケースとも問題ない。
III-4	相手国関係者への提案、働きかけについては応募時	FS を実施しながら相手国関係者への提案や働きかけを行う計画としている案件があることは理解す

No	質問事項	回答
	から見通しが立っていることが求められるか？	る。ただし、既に相手国関係者と話をしており、FS を円滑に進める素地がある案件の方が望ましい。
IV 経費について		
IV-1	委託費に設備購入費は含まれるか？	FS に関する委託費は人件費や旅費等をカバーすることを想定しており、原則、設備購入費は含まれない。
V 成果物の取り扱いに関して		
V-1	成果物として提出した報告書は外部に公表されるのか？	公募要領にも書かれているとおり、報告書は経済産業省提出用（対外公表されない）と公表用の二種類を提出してもらいたい。
VI その他		
VI-1	採択案件は、何社が合格するのか？	4社程度を想定している。
VI-2	契約締結はいつ頃行われる想定か？	契約締結は早くても7月末頃を想定している。